伊庭　慎吉（いば　しんきち 1885-1975）

蒲生郡西宿村（現・近江八幡市西宿町）にて、伊庭貞剛の四男として生まれる。

学生時代、絵画の勉強にフランスに留学、帰国後、八幡商業学校（現・滋賀県立八幡商業高等学校）の美術（絵画）の教師として勤務。

結婚後、沙沙貴神社の神主に就き、大正２年に伊庭邸の完成後に移り住んだ。

その後、昭和６年（1931）から昭和８年（1933）までと、昭和１６年（1941）から昭和２０年（1945）まで、２期にわたり安土村長に就任。安土駅の新設誘致に尽力をそそいだ。また、絵画の関係から、画家、歌人、俳人などの芸術家との親交があり、しばしば邸宅が友人のアトリエになっていた。

そのため、友人から贈られた手紙、書、絵画などの多くの愛蔵品がある。

時のいわゆる風流人であったことを伺い知ることができる。

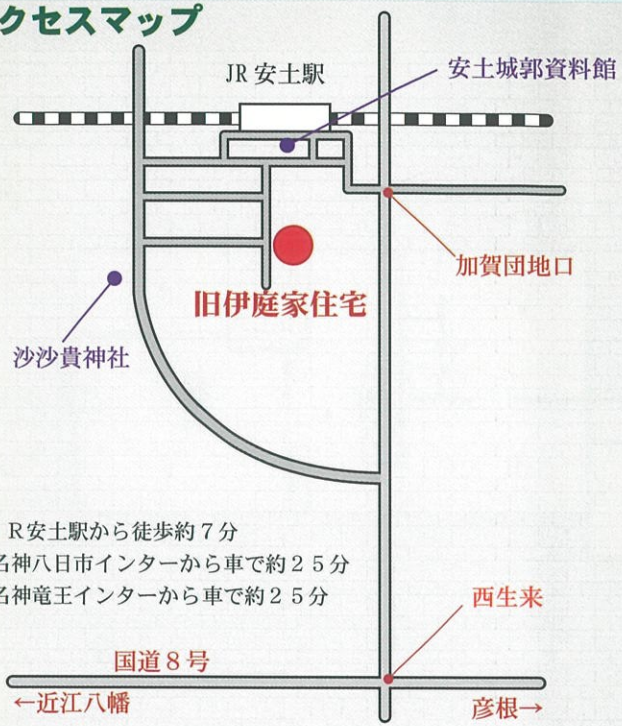
伊庭　貞剛（いば　ていごう 1847-1926）

蒲生郡西宿村に生まれる。

司法省司法検事などを歴任した後、住友家に入社、別子銅山煙害問題の解決に心血を注いだ。

その後、住友家第二代総理事に就任し、数々の業績を残すも「事業の進歩発展に最も害するものは、青年の過失ではなく、老人の跋扈（ばっこ）である」という信念から、５７歳で引退、石山（滋賀県大津市）の別荘で余生を送った。

アクセスマップ



・ＪＲ安土駅から徒歩約７分
・名神八日市インターから車で約２５分
・名神竜王インターから車で約２５分

※旧伊庭家住宅には駐車場がございません。
車でお越しの方は、沙沙貴神社の駐車場をご利用ください。

休館日　月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日、年末年始
時　間　１０：００～１６：００（受付は 15:30 まで）
※１～２月は、土・日曜日と祝日のみ公開です。平日は予約のみ公開いたします。

お問合せ
オレガノ
〒521-1343
近江八幡市安土町小中 191
TEL 0748-46-6324

The house which William Merrell Vories designed

旧伊庭家住宅

FORMER IBA's STUDIO

■種類　近江八幡市指定文化財　建造物
■内容　［構造］木造２階建（一部屋根裏３階）
［屋根］天然石スレート葺きの切妻　妻入桟瓦葺き入母屋
［外壁］ハーフティンバーと呼ばれる化粧梁
■面積（建物）　１階　214.02㎡　２階　109.55㎡　３階　28.79㎡　合計　352.36㎡
■建築年代　大正２年（1913年）［昭和９～10年に改造］
■主な特色

大正２年、建築家ヴォーリズ氏の設計による洋風の木造住宅で当時としては異色の建築物である。

建物は、主体部と玄関からなり、主体部の外観はハーフティンバーと呼ばれる化粧梁で細分化された意匠の外壁に、傾斜の強い天然石スレート葺きの切妻屋根を乗せて煙突を備えた、英国の伝統的な様式を一部に伝える洋風建築と、入母屋造りで妻入桟瓦葺きの和風玄関とで構成されている。

建物内部は、１階が和風を基調としており、畳敷きの座敷は書院風の造りとし、付け書院や縁側にしつらえた地袋など、斬新な意匠でおさめられている。

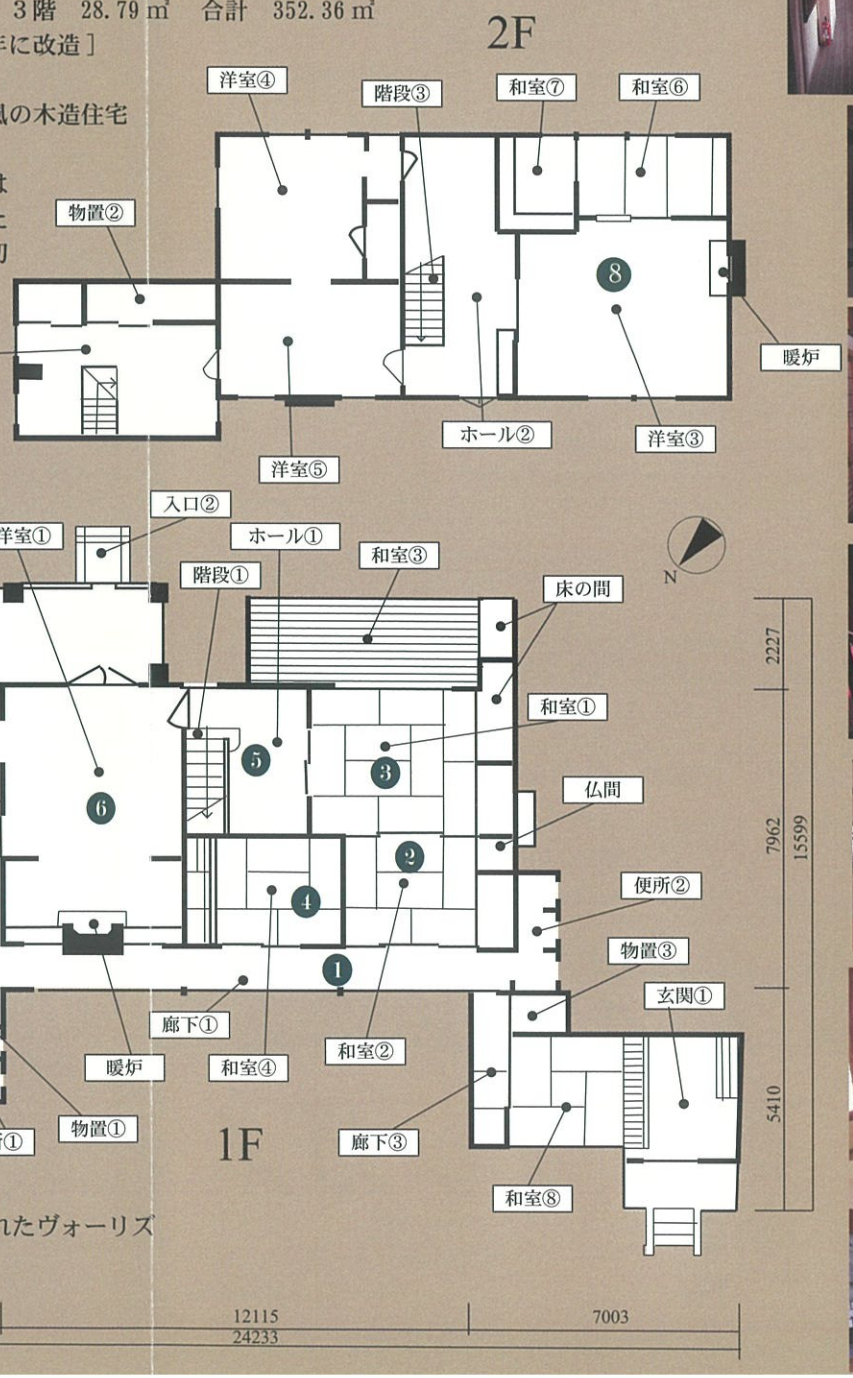
また、食堂、廊下、階段ホールなどでは、洋風の構造ながら、小丸太、竹、ナグリ等の数寄屋の材料を積極的に使用し、随所に和風建築の手法を取りいれている。

食堂部分は中央に野石積みの暖炉があり、和風民家の土間を意識していると感じられる。

２階は全体的に洋風を基調としてはいるが、建具や天井に和風を取りいれている。

屋根裏を利用して３階部分を設け、そこからベランダに出られるよう工夫されている。

洋風の外観を持ちながら、巧みに和風を取りいれたヴォーリズ初期の意欲的な作品として貴重な構造物である。



❶ 玄関を入ってすぐの廊下は数寄屋風に網代天井となっています。

❷ ジャパニーズルームとも呼ばれ、襖絵の「春の図」は、高倉観崖の作で、この部屋には近藤浩一路の「近江八景図」もあります。

❸ 「春の図」の裏側は、「秋の図」が描かれています。この部屋はいわゆるゲストルームで、多くの文人や芸術家たちが集った部屋と思われます。欄間は「筬欄間」と呼ばれ、非常に高い技術を要します。

❹ この部屋はもともと女中部屋でしたが、後はご夫婦の部屋だったようです。天井は船底天井で、階段下を利用したクローゼットがあります。

❺ この階段は、ヴォーリズの心優しさがうかがえるもので、緩やかな傾斜、手にやさしい手すり、丸みのある角などのほか、風と光を巧みに取り入れています。

❻ この100年前の暖炉のあるリビングには、八角形の机とソファーがあり、洋室となっています。暖炉の下のタイルはオリジナルで現在では手に入りません。

❼ この部屋はお茶室で、さお竹天井となっています。また、雪見障子のすそや床の間の天井には、さりげなく網代が組まれています。

❽ ここは慎吉のアトリエで、この部屋にも大きな暖炉が設置してあります。この部屋の入り口には杉の一枚板による板戸が使用されており、現在では貴重なものです。